

地方自治体と連携し、夏期の人手不足を解消

有限会社 小澤農場 (新潟県南魚沼市)

経緯・概要

- ・2017年1月に法人設立。魚沼産コシヒカリに加え、地域のブランド品目（八色すいか、八色しいたけ）などで経営の多角化を図り、通年雇用維持と収益性を確保。
- ・長年、農業体験や大学生のワーキングホリデーなどで農業経験のない人材を受け入れ。近年は、後継者不在の農地の受け皿として、農地集積化を進める。
- ・豪雪地域である南魚沼では、稲作の農閑期である冬場でも、スキー場の業務や除雪作業など、仕事には事欠かないため、季節労働者の受入れにも柔軟に対応してきた。
- ・2021年7月、新潟県南魚沼地域振興局が、1年を通じて当該地域に定着してもらうことを目的とした「農×Winter」マッチング支援を開始。夏のスイカの収穫時期は人手不足になりがちだったこともあり、「農×Winter」を通じて人材を募集。



小澤農場の従業員の皆さん

有限会社 小澤農場

- <所在地> 新潟県南魚沼市茗荷沢新田28番地1
<代表> 代表 小澤 顕也
<法人設立> 2017年1月
<売上高> 2億6,000円（2021年度）
<社員数> 17名（役員5名（男）、正社員4名（男2、女2）、常勤パート8名（男4、女4））季節ごとのアルバイト雇用多数（2022年）
<事業概要> 稲作、露地野菜（すいか）、しいたけの生産。
<経営規模> 31.3ha（水稻25ha、すいか6.3ha）、しいたけ15棟（21万菌床）

【南魚沼】農×Winter～グリーンシーズンにお試し農業をしてみませんか？～

Winter 農×Winter ～This is my life.～

農業名	住所	受入可能な就業形態	体験・勤務内容	受入時期
（有）小澤農場	南魚沼市茗荷沢	・農業体験 ・短期就業 ・長期就業	・すいかの収穫作業 ・しいたけの収穫・菌型作業	通年

「農×Winter」の紹介ページ
(新潟県南魚沼農業普及指導センター)

「農×Winter」とは

- ・南魚沼地域振興局が発案したライフスタイルの提案・支援活動。
- ・冬はスキー場やウィンタースポーツを主な活動としている方に、グリーンシーズン（春～秋）も農業分野で働いてもらうことで、1年を通じて自然豊かな南魚沼地域で過ごしてもらうためのマッチング支援。
- ・農業体験や就業（短期・長期など）の受入農家をホームページに掲載。

多様な働き方の人材の声



K 氏

【略 歴】 冬は越後湯沢のスキー場のインストラクター、通年で占い師。食品工場での夜勤も行っていましたが、体調を崩し、夜勤を辞め、「農×Winter」を通じて、未経験だったが小澤農場に就農。30代。

【年間時間配分】 農業（6～7割）、スキー業務（2～3割）、占い業務（1～2割）

【働いてみた感想】

- ・初めて小澤農場を訪問した際、他の仕事も継続したいこと、自身の性格や大切にしている価値観を、包み隠さず話した。それらを全て受け入れてくれたことにも感謝。事前に申請すれば、占い師の仕事の予定を優先してくれるので、助かっている。
- ・報酬よりも、昼間に働けること、自然相手の仕事であることが一番大切なこと。体調が整い、生かされているという感覚で、人生観も変わった。例えば、夏の暑い時期の作業などから、忍耐強さを身につけ、収穫した農産物を慈しむようにもなり、また農業を通じて、感性も研ぎ澄まされていく感覚があり、人生でも今が一番やりがいを感じている。
- ・小澤農場で社会保険や労災に加入してくれることには、大変感謝している。



自社ブランド「八色小町」



ブランドきのこ「八色しいたけ」

＜ 契 約 の 種 類 ＞	常勤パート契約の従業員 (期限付き雇用。期間は4月1日～11月30日)
＜ 待 遇 ＞	時給制。社会保険完備（雇用保険、健康保険、年金保険、労災保険）
＜ 作業日数、時間 ＞	就業時間8:00～17:00
＜ 作 業 内 容 ＞	一連の農作業 (水稻、露地野菜（すいか）、しいたけ栽培など)

多様な働き方人材を採用してみて・・・

- ・「農×Winter」を通じて人材を確保することができ、特に人手が不足する夏場のすいかを収穫時期に働いてくれて大変助かっている。ウインタースポーツで鍛えた体力があるので頼もしい。
- ・働きやすい職場にするためには、経営者や従業員に指示を出すマネージャーなどが、率先して多様な働き方について理解し、その人を尊重し、コミュニケーションをよくとることだと思う。
- ・まだまだ人手は必要なので、季節雇用に限らず、通年でも多様な働き方人材を受け入れるつもりである。



令和2年度全国優良経営体表彰
経営改善部門で、
農林水産大臣賞を受賞



未来の農業者育成

小澤農場では、地域交流として、数年前から小中高の子供たちに農業を教えている。これは、食育や農業の魅力発信に繋がる取り組みだが、子供たちの柔軟な発想などから新しい発見もあり、原点に戻って考えてみるなど気づきが得られ、とても刺激になる。

専門人材のリモート雇用により 農業経営に悩む「孤独」から解放

環境緑花工業株式会社 (青森県八戸市)

経緯・概要

- ・1982年に設立の土木・造園工会社だったが、季節や気象に左右されない安定生産の観点から、2015年に植物工場「カーリーナファーム」を新設し、農業に本格参入。
- ・2020年1月、先代社長が急逝し、現社長が急遽後継者として引き継ぐ。社長業の知識も経験も無く、社内にも経営やマーケティングの専門知識を有している従業員もいなかったため、山積する経営課題についてはだれにも相談できず、孤独な状況。
- ・地方では、専門性を持った人材が少ないこと、複数の専門家を正社員として雇用する経済的余裕がなかったこと、コロナ禍でリモートワークが当たり前となったことなどから、リモートワークの販売・マーケティング専門家を探すことに。
- ・2021年4月に募集を開始し、6月に採用。半年間の試用期間を経て、毎年自動更新のパートナー契約を締結。
- ・必要に応じて、青森県のスーパーや市場での野菜の価格や販売状況の視察や、カーリーナファームで生産される野菜の状況を確認。また、農業部門の従業員ともコミュニケーションをとり、現場の情報も把握。
- ・当初は、販売やマーケティングに関する業務が中心であったが、現在では、経営や事業方針についても、複数の企業で培った経験やスキルを活用して対応しており、社長の右腕『番頭』のような存在となって活躍。



植物工場内部



植物工場の温度管理をする薪ボイラーの燃料は造園業の廃棄木材による木質バイオマス等を使用

環境緑花工業株式会社

- <所在地> 青森県八戸市河原木字千刈田12-5
- <代表> 代表取締役 山谷 幹樹
- <法人設立> 1982年2月
- <売上高> 2億5,000万円（造園業込）（2021年度）
- <社員数> 29名（役員4名（男2、女2）、管理職1名（男1）、一般社員18名（男16、女2）、常勤パート3名（女3）、アルバイト3名（男1、女2））
- <事業概要> 施設野菜（ミニトマト、いちご、葉物類）の生産、土木工事、造園工事、緑化用樹木等生産販売等
- <経営規模> 施設（植物工場）25a、樹園地3ha（花卉園芸）

多様な働き方人材の声



A 氏

【略 歴】 東京近郊に在住。販売やマーケティングなどの業務系コンサルタントとして独立。フリーランスの専門家で、他の企業とも契約。

【時間配分】 時間に縛られない働き方。通常は、リモートで相談にのり、課題に取り組む。月に1回程度は現場を訪問。

【働いてみた感想】

- ・ リモートワーク中心であっても、作物の状態や従業員が農作物が売れて喜ぶ顔などを、実際に現場で見て感じることを大切にしている。ビジネスライクな東京の仕事と違って、この仕事は、本当に現場で困った課題を真剣に解決することができて、やりがいがある。
- ・ 社長が経営課題を隠さずに公開してくれることで、会社の一員であると感じられることにも満足しているが、現場の従業員との距離感がより縮まれば、更に仕事もやりやすくなると思う。



専門人材を交えたミーティング

< 契 約 の 種 類 >	パートナー契約（契約は毎年自動更新）
< 待 遇 >	月給制。社会保障の負担はない（個人加入）
< 作業日数、時間 >	業務時間、場所の拘束はない。（業務はリモート会議やLINEで行う。平均月1回の現地訪問）
< 作 業 内 容 >	農業部門のサポート的な業務（農産品の販売方法やマーケティングなどを中心とした調査、提案など）

多様な働き方人材を採用してみて・・・

- ・ 専門家が必要な時期は限定されていることが多く、毎日出勤する必要がない場合も多い。そのため、必要な時に働いてもらえる働き方は、経営面でも負担が少なくて助かる。
- ・ 問題解決に要する時間が早いことが一番大きい。夜でもSNSなどのコミュニケーションツールを活用し、情報を共有することで、効率よく業務を進められている。
- ・ リモート勤務のため、当初は物理的な距離もネックとなり、他の社員との関係性も薄かったが、月1回ほどの訪問を重ねる中、他の従業員とも交流し、現場感覚などが培われていった。
- ・ 社内情報をオープンにして風通しを良くしていることもあり、リモート勤務でも会社への帰属意識が生まれ、率直に意見が言える環境ができている。
- ・ リモート勤務の専門人材採用については、ノウハウができたので、今後も、人材採用サイトなどを活用して、必要な人材を採用していきたい。



カリナファームで栽培したミニトマト「カラフルミニ」



リモートワークの人気

リモートで働ける人材を募集した際、全国から3日で44人の応募があった。その大半が地元青森県出身者であった。地元のために何らかの貢献をしたいといった声は多く聞くものの、なかなかI・Uターンまでの行動とはならないのが現状。そのような中、リモートワークという働き方には魅力があり、大きな可能性がある。

専門人材のリモート雇用により6次産業化を推進

株式会社瀬戸内ジャムズガーデン (山口県大島郡周防大島町)

経緯・概要

- ・2001年、当時電力会社に勤務していた松嶋社長がパリでジャム専門店を訪れたことがきっかけで、2003年、奥様の実家がある周防大島に手作りジャム専門店を創業。併せて、島の耕作放棄地を借り受けて自社農業部門を立上げ。
- ・現在は、酒造事業や自家製ジャムを活用したスイーツが楽しめるカフェギャラリーも運営するなど6次産業化を推進。
- ・2018年、事業の拡大に伴い、Webの専門家を募集したが、地方の小さな島では専門人材と出会うことは難しい状況だった。
- ・フルタイム勤務にこだわらず、適時に的確な支援を得られればと、東京のNPO法人を介して、通信会社勤務でWebマーケティングを行っているN氏を採用。専門家のダブルワークのため、雇用契約ではなく、フレキシブルに動けるパートナー契約を結ぶ。



自社果樹園



カフェギャラリー

- ・週1回のリモート打ち合わせが基本。必要に応じてZoomなどでの相談業務や、現地出社もある。
- ・また、役割を限定することなく、関連する領域の個別の業務や課題解決などにも可能な限り対応している。

株式会社瀬戸内ジャムズガーデン

- <所在地> 山口県大島郡周防大島町日前331-8
- <代表> 代表取締役社長 松嶋 匡史
- <法人設立> 2011年6月 法人化(2003年11月 個人事業として創業)
- <売上高> 1億1,400万円(2021年度)
- <社員数> 24名(役員2名(男1、女1)、管理職5名(男1、女4)、一般職7名(男1、女6)、常勤パート10名(男1、女9))
- <事業概要> 農産物(ブルーベリー、いちご、柑橘類)の生産、ジャム・リキュールの製造販売、観光農園、カフェの運営
- <経営規模> 畑1ha 施設(ビニールハウス)40a

多様な働き方人材の声



N 氏

【略 歴】長年、東京都内の大手通信会社に在籍。経験を活かし、Webマーケティングを担当。専門知識を活用しながら、漁業・伝統工芸会社等も支援。50代。

【時間配分】時間に縛られず、ミッション単位での対応。Webマーケティング以外も必要に応じて自分の許容時間内に支援。

【働いてみた感想】

- ・基本、東京からのリモート業務だが、この関係性と距離感は現状がベスト。
- ・農業という自然を相手にする仕事に携わっていることは幸せ。人生感が180度変わった。東京では経験できない、新たな価値を見出すことができた。将来、2拠点居住をすることも良いと思っている。
- ・雇用する側もされる側も活躍の場が広がるので、地方と都心部での人材マッチングのハードルがもっと低くなれば良い。



第50回日本農業賞「食の架け橋の部」大賞受賞につながった自家農園レモン100%の「瀬戸内のレモンチェッロ」

< 契 約 の 種 類 >	パートナー契約（契約は毎年自動更新）
< 待 遇 >	月給制。社会保障の負担はない（本業の通信会社が負担）
< 作業日数、時間 >	ミッション単位での対応、業務時間、場所の拘束はない。（週1回リモート会議、随時相談に対応し、必要に応じて現地訪問）
< 作 業 内 容 >	オンラインでのWebマーケティング業務（サイト運営、販売方法の検討など）

多様な働き方人材を採用してみて・・・



松嶋社長

- ・HP作成を以前は外注していたが、Webマーケティングの専門家を採用したことで、最近は顧客満足度が向上しており、期待していた以上の結果が出ている。
- ・過疎地の島での経営環境を知ってもらうため、最初の頃は毎週訪問して実際に現地の空気を感じてもらったこともあり、特に問題なく、お互いに業務がスムーズに行うことができた。
- ・時流に合わせたシステム改変の提案を受けるなど、経営にも深く関わってもらい助かっている。

・多様な働き方の人材とは、お互いの立場を理解するために、望む働き方や条件について事前に十分な話し合いをすることが重要で、また、Win-Winの関係を構築するためには夢を共有することが一番重要。

・組織に無い専門知識を外部から入れるために、多様な働き方の人材を、これからも積極的に活用していきたいので、人材とのマッチングの仕組みがもっと充実すれば助かる。



島を救う特産物紹介のHP

2018年、貨物船の衝突事故により、大島と本土をつなぐ橋が壊れて1ヶ月くらい通行止めが続いた。その際、N氏が島の特産物を紹介するHPを1週間程度で作成。その結果、島の業者はオンライン上で取引することができるようになり、島民に大変喜ばれた。